

(寄稿)

NOMURA

飯塚病院における新看護提供方式 ～セル看護提供方式®の実際とその効果～

セル看護提供方式®(以下、セル方式)とは、看護師の「動線」に着目し、改善手法を用いて動線のムダを省き、「常に患者のそばで仕事ができる」新しい看護提供方式です。

株式会社麻生 飯塚病院は、2010年からテスト導入を経て2013年には、全部署への導入を実現しています。セル方式を生み出したきっかけとなったのは、トヨタ生産方式の応用による業務効率化等による運営コストの削減を実現したバージニア・メイソン病院(米国ワシントン州シアトル)の見学でした。

「セル看護提供方式®」の名称は、製造業の「セル生産方式」に由来しており、一人から数人がライン生産で見られるような単純な作業ではなく、複数の作業を行う生産方式です。これにより、作業員は製品の完成をイメージして作業することができ、個々の作業に対し、責任感が醸成されるという効果にもつながります。

看護の現場でも、このセル生産方式の考え方が十分に生かされており、セル方式は、更なる工夫により様々な製造業とは異なる看護業務特有の効果も生み出しています。例えば、電子カルテ端末や使用頻度の高い医療機器、医療材料を一つのカートにまとめることにより、看護師は常に病室にいる患者のそばで作業やカンファレンスまでも行うことができます。また、度々ナースステーションに機器や材料を取りに戻るために走る看護師の姿を見ることもなくなりました。

これらの工夫により、看護師の気持ちにも余裕が生まれ、新人看護師は、いつも忙しそうにしている先輩へ声をかけにくいということが少なくなり、コミュニケーションや教育面にも良い効果が得られています。飯塚病院では、セル方式導入後、新人看護師の離職率が減少しています。実際、「声をかけることに気兼ねする」というのは、新人看護師のストレス度調査でも、上位を占めているようです。このほか、ナースコールが6分の1に激減したことや、褥瘡発生率や転倒・転落件数も減少するなど、様々な効果が現れています。

本稿は、株式会社麻生 飯塚病院 森山由香 副院長兼看護部長に寄稿いただき、飯塚病院で取り組んでいるセル方式について、紹介いただきました。セル方式を生み出すきっかけとなったバージニア・メイソン病院の見学中に目の当りにしたことや、単に業務効率に限らず実践的に取り組む中で、現れた効果や今後の課題など、データも交えて解説いただきました。

働き方改革という言葉を目にする機会が多い毎日ですが、人材不足が大きな課題の一つとなっています。セル方式は、業務の効率性を上げるだけでなく、看護の質の向上、新人看護師の離職率の防止効果もあり、非常に有効な取り組みと考えられます。従来の方式からの転換は、多大なエネルギーを要しますが、人材確保難を乗り切る手段の一つとして導入を検討されては、いかがでしょうか。

(市川)

2019年5月20日

Healthcare note

(No. 19-05)

寄稿者名：
株式会社麻生 飯塚病院
副院長兼看護部長
森山 由香

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザリー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部

野村證券株式会社 金融公共公益法人部 〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2 アーバンネット大手町ビル

本資料に含まれる情報もたらす一切の影響、本資料の内容に関する正確性、妥当性、法務上のコンプライアンス等につきましては、野村證券はその責を一切負いません。本資料中の記載内容における各種法令・規則等は随時改定されますので、あくまでも参考資料としてお取り扱いください。また、記載内容における法令・規則及び表現等の欠落・誤謬などにつきましては、野村證券はその責を一切負いません。本資料は、貴社が経営判断を行うに際して参考となると考えられる情報の提供を目的としたものです。経営判断における最終意思決定は貴社自身で行われるものであり、野村證券はこれに対する意見または判断を表明するものではありません。本資料のご利用に際しては、弁護士、公認会計士等あらかじめその内容をご確認ください。